

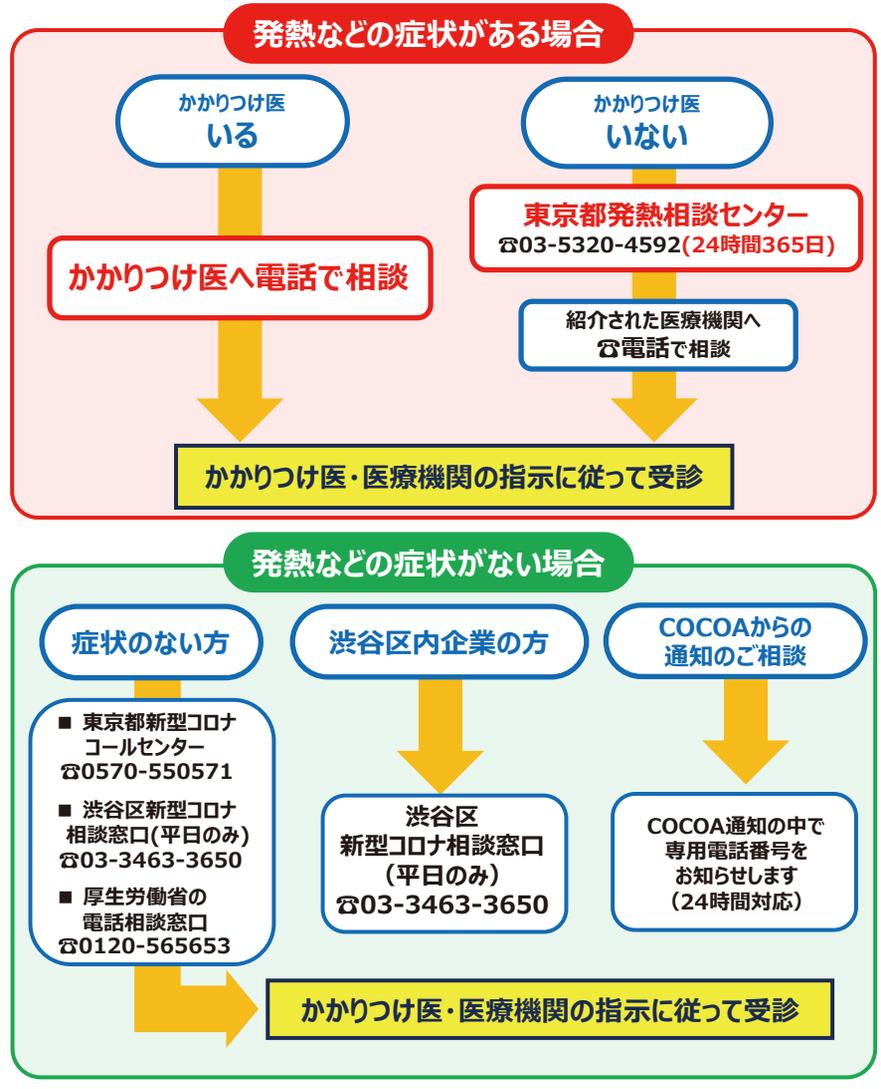


# 近藤じゅん子通信 Vol.16

新型コロナウイルス感染症に関する窓口は、症状や状況等で問合せ先が異なります。

## 新型コロナウイルス感染症 相談窓口のお知らせ

発熱などの症状があり、新型コロナウイルス感染症が疑われる場合、まずはかかりつけ医に電話する新しい体制となりました。また、東京都では「発熱相談センター」を設置し、24時間365日対応しています。



渋谷区地域保健課感染症対策係

## 第4回定例会・近藤じゅん子の代表質問より

令和2年11月26日(主意)

### 地域振興

#### 町会活動の支援について

**質問** コロナ禍に於いて、町会活動の在り方も大きく変わろうとしています。

そこで、「地域活性化補助金事業」を改めて周知をし、町会活動を積極的に支援することを提案

します。特に、ICT機器に関することや、ホームページの開設等について具体的なアドバイスが必要だと考えます。

#### 答弁 (区長) 議員ご提案の「町会

等の地域活性化のための補助金」は、まだ十分に活用されていない状況です。補助金対象経費の見直しをするなど、より多くの町会で、活用していただけるように検討してまいります。

### 環境

#### 路上喫煙禁止表示について

**質問** 駅周辺等の強化地域以外の住宅街等でも、路上喫煙は後を絶ちません。

そこで、路上喫煙禁止啓発ポスターに「〇〇町会」「〇〇商店」等を入れ込むことにより、この地域では、「ルールを守らない人は許しませんよ。見ていますよ。」という注意喚起になると考

えます。

区のホームページからダウンロード可能な路上喫煙禁止啓発ポスターに、オリジナル作成も選択できるように改善して頂けないでしょうか。

(区長) 議員ご指摘のオリジナルポスターは、地域で生活する方だけでなく、訪れる方に対しても、一定の効果が期待できると考えます。ご提言の趣旨に沿って、区内全域で、ご活用いただけるようなデザインの掲載を行ってまいります。



路上喫煙禁止啓発ポスター

#### 「シブヤもったいないマーケット」について

**質問** わが会派の提案でスタートをした「シブヤもったいないマーケット」は、渋谷区内の事業者や住民が一体となって、フードロス削減に取り組み機運を高めるために開催されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、開催できない状況です。コロナ禍により、自宅での調理や、テイクアウトが増している状況を鑑みますと、身近な生活の中で、フードロス削減のヒントになるような情報発信はタイムリーだと考えます。

「シブヤもつたいたいないマーケット」のオンライン開催について、ご所見を伺います。

**答弁**（区長）新型コロナウイルスの拡大のため会場を使つての開催を取りやめました。が、区民の皆様は食品ロスや3Rを呼び掛けてきた大切な機会である「しぶや・もつたいたいないマーケット」を途絶えさせることなく続けていくために、議員ご提言にもあるオンライン開催についての準備を行っているところです。



## 防災

### 避難所運営委員会について

**質問** 避難所ごとにばらつきが出ないように、全避難所に避難所運営委員会が設置されるように、区は、進捗状況を把握

し、設置が困難な避難所に対しては、具体的にアドバイスを行うなどの支援が必要です。区からアウトリーチをする等の積極的な支援を提案します。

**答弁**（区長）昨年の台風19号の際に開設した一部避難所において、統制がうまくとれないという課題が浮き彫りとなりました。

このことを踏まえ、各避難所運営委員会の組織化、体制作り、訓練の方法などを解説した「避難所運営基本マニュアル」を作成し、自主防災組織や施設管理者などの関係者を対象とした説明会を開催しました。

今後、避難所運営委員会未設置の避難所については、区が関係者を集めての勉強会を開催するなど、設置に向けて積極的な支援を行ってまいります。

### 消耗品配備事業について

**質問** 先日、運営委員会の役員と避難所へ行き、避難所運営に係る消耗品を確認しました。

その中で、拡声器が1台配備されておりましたが、避難所の敷地は広く、複数のフロアにも及ぶことから、拡声器やトランシーバー等は複数台必要だと思われました。

全避難所で共通して必要だと想定される拡声器等の備品は、必要な台数を速やかに、配備することを提案します。

**答弁**（区長）区では、避難所運営委員会が必要とする消耗品があれば、区の予算で購入助成する制度を運用しています。まずは、こちらを有効に活用いただければと思います。

ただし、高額であるものの、避難所の運営で必要となるものであれば、区で適切に配備することも検討してまいります。

### 風水害防災訓練の導入について

**質問** 昨年は、大型台風やゲリラ豪雨等による被害が多発しました。そこで、風水害を想定した避難行動ゲーム「E V A G（イーバック）」による訓練の導入を提案します。

「E V A G」は、避難行動をリアルにイメージできるカードゲームタイプの教材です。

具体的には、色々な人の立場に立ち、災害を疑似体験することで、災害時の避難行動の大変さを実感するとともに、そこに存在する様々な問題を明らかにすることで、地域での助け合いや、避難を支援することの必要性に気づくことができ、防災意識を高めるには有効な訓練です。

ゲームのベースとなるタウンマップを渋谷区や地域ごとの洪水ハザードマップに落とし込めば、渋谷区バージョンとして、より実効性のある訓練ができると思います。

**答弁**（区長）今後の区の防災訓練でも「E V A G」のような手法の活用について研究してまいります。



避難行動ゲーム E V A G(イーバック)

### 防災キャンプの導入について

**質問** 熊本地震の際には、校庭などにキャンプ用のテントを張って避難をした方も多かったと記憶しています。

これは特に、お子さん連れのご家族等がお子さんの特性を考慮した子育て世代が中心だったと思います。

そこで、防災訓練に参加しにくい若い世代や、子育て世帯等に対し、防災キャンプの実施を提案します。

**答弁**（区長）議員からのご提案にありますように、アウトドアは、防災と親和性が高く、その知識や経験、またアウトドア用品は、日常はもちろん災害時にも有効に活用できるといふことは、熊本地震のテント村など

の実例でも報告されています。今後の区の防災訓練でもこのような手法の活用について研究してまいります。



代表質問に立つ近藤じゅん子

## 教育

### インクルーシブ図書の導入について

**質問** 先日、会派で『プライドハウス東京レガシー』へ視察に行つてまいりました。その一角で、LGBTQに関連した絵本がありました。

約9割の子どもたちが、中学生までに性別違和を自覚することが分かつており、70%が性別違和を感じていると言われています。

また、「絵本・こどもに伝える認知症シリーズ」が全5巻あり、認知症を知識として伝えるのではなく、認知症本人、家族、周囲の人の思いや繋がりにから、認知症を学び、こどもの心を育てることを大切にしています。

また、相談支援や受診に繋がりにくい若年性認知症の方を早期支援に繋ぐことへのきつ

かけになるかも知れません。性の多様性及び認知症をテーマにした絵本を学校図書、全図書館への導入を推奨することを提案します。

**答弁**（教育長）議員ご提案の絵本の推奨については、様々な書籍から気持ちを感じたり、新たな知識を得たりすることは大切なことであり、校長会や人権教育担当者を通して、各学校園に広めてまいります。

### ダイアログ・イン・サイレンス出張の導入について

**質問** 聴覚障害者の方のアテンドで、音のない世界で、言葉の壁を超えた対話を楽しむ「ダイアログ・イン・サイレンス」。

2017年まで渋谷区神宮前にダイアログ・イン・ザ・パークの常設会場がありました。渋谷区の子どもたちも体験をしており、後日、アテンドスタッフが会場周辺で、白杖を持ち、歩いているときに、渋谷区の子どもたちに声を掛けられ、大変嬉しかったとのエピソードもお聞きしました。

ダイアログ・イン・サイレンスを、子どもたちに向けた出張授業として導入することを提案します。

**答弁**（教育長）議員ご提案のダイアログ・イン・サイレンス出張授業につきましては、言葉の壁を越えるという意味では、障

がいの有無に関わらず、外国の方たちにも有効であると考えられます。

次年度の教育計画を立案するにあたり、校長会やオリピック・パラリンピック教育の担当者を対象とする会において情報提供を行うなど、活用を促してまいります。



## 福祉

### デジタルバイド解消について

**質問** 「なんでもスマホ相談会」の講師役を地域の若い世代や子どもたち、S・I・S・A・P大学の学生等に担当をしてもらい、多世代交流の集いの場を設置することを提案します。

例えば、渋谷区防災アプリのダウンロード方法をお教えることで、高齢者は勿論のこと、教える側の若い世代も防災行政を知ることになります。

若い世代が、こういった交流の場を重ねていく先に、地域での役割が見えてきて、有事の際に、災害時要配慮者支援にも繋がっていくと思うのです。

また、高齢者の側から、趣味や長年の仕事で培ったノウハウや、渋谷や地域の歴史等を発信する方法を得る事を通して、高齢者の先輩から学ぶことも多いのではないかと思います。

デジタル・ネイティブ世代がデジタルバイド解消に一役かかってもらう、「なんでもスマホ相談会・勉強会」の導入について区長のご所見を伺います。

**答弁**（区長）デジタル活用支援員の育成については、同年代だからこそ共感できる苦手意識や課題を理解する利点もあり、まずは高齢者層からの育成に着手したいと考えます。

その後、議員ご提言のデジタル・ネイティブ世代である地域の若い世代を支援員として育成し活用することで、多世代交流の場ともなるよう検討してまいります。



### デジタルバイド解消事業のPRについて

**質問** 渋谷区名誉区民の井上順さんをデジタルデビュー大使に任命する事を提案します。

デジタルバイド解消サイト等の開設や、動画配信等にユーザー目線でご協力を頂くなど、皆さんが明るく、粘り強くスマホ等のデバイスを使いこなせるように支援していただいてはいかがでしょうか。

**答弁**（区長）高齢者のデジタルバイド解消事業は、様々な手段を用いて広く周知を図ることで、多くの方に参加していただきたいと考えています。

議員ご提案のデジタルデビュー大使（仮称）につきましては、事業の効果的なPRが期待できることから、実現に向け検討してまいります。

### 渋谷区介護事業者連絡会の設立について

**質問** 介護サービス事業所の相互交流と、サービスの質の向上、制度の提案等に貢献して頂き、渋谷区行政との連絡・連携の強化を目的とした「渋谷区介護事業者連絡会」の設立を提案します。

今後コロナ禍は続きます。また、高い確率で発生すると言われている大規模災害等の有事の際に、平時から事業者間や行政と事業者間の連携が密であれば、円滑な災害時要配慮者支援に繋がります。

区内の介護事業者・介護従事者が一体感を持って介護のスキルを磨きあい、誇りを持って現場に向かえるような支援は、

介護人材の定着に繋がると考えます。

（区長）区と事業所、また事業所間でさらに連携を深めていくため、まず、区内の連絡会等の活動状況などを把握したうえで、議員のご提案を含め、連携方法や体制作りについて今後検討してまいります。

### 地域包括支援センターの再構築について

**質問** 認知症は、未だ偏見が強く、相談しにくいことから、認知症に係る、相談や支援等については、更に、地域に根差した取り組みが重要です。

そのために、積極的なアウトリーチ型支援の強化と、相談しやすい開かれた施設としての再構築が必要だと考えます。

そこで、町会や地区町会連合会、各シニアクラブ等の定例会での情報交換等、日常的に地域に入っていくようなことはできないでしょうか。

また、施設の壁面や入口周辺等には、施設名に加えて、分かりやすく、利用しやすい案内表示の工夫も必要ではないかと考えます。

**答弁**（区長）地域包括支援センターの業務内容や場所について、65歳以上の方に限らず、区民全体の認知率を高めるため、議員ご提言のとおり、地域にわたる定期的な周知、区ホーム

ページの内容の更新とともに、施設周辺の案内表示等、ハード面の工夫にも取り組んでまいります。

### 地域共生社会の実現について

**質問** 「地域共生社会の実現」は、全庁横断的に取り組まなければなりません。

実施に向けては、「地域共生社会検討委員会」等を設置し、庁内の連携体制が出来ていることに加え、住民や民間団体等と連携しながらソーシャルワークができる職員の育成が重要です。

渋谷区らしい地域共生社会の実現に向けた取り組みについて、どの様に考えておられるのか区長のご所見を伺います。

**答弁** (区長) 区民ニーズが多様化する中、「縦割り」で整備されてきた公的なサービスを継続するのではなく、全庁横断的に取り組まなければならぬと私も考えています。

「渋谷区版地域共生社会」は、子育てネウボラ、生活困窮者支援、高齢者介護、障がい者福祉などの各事業に横串を入れていくことが実現への近道と考えることから、できるだけ早い段階で関係所管を集めた検討会を設置したいと思います。

併せてソーシャルワークを担う人材の育成にも力を入れながら、地域コミュニケーションにおいて支え合う関係性の構築に取り組

み、区民をはじめ地域の多様な主体の参画による地域共生社会の実現を目指してまいります。

### フレイル予防の推進について

**質問** 私は、2018年の第4回定例会で、フレイル予防の取り組みを提案しました。区は本年10月より、フレイル予防の視点を踏まえた通いの場、自主グループの設立、継続活動の支援を開始しましたが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えますと、日常生活の大半を過ごす自宅の生活の充実化も必要だと考えます。

デジタルデバインド解消事業との連携で、ハイブリット型での実施も併せて検討すべきです。

**答弁** (区長) ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたフレイル予防については、オンラインを活用した交流の仕組みや自宅での健康づくりなど、今後デジタルデバインド解消事業と併せて検討してまいります。

### 紙おむつ助成対象者の拡大について

**質問** 紙おむつ助成は、現在、要介護1以上の高齢者が対象となつていますが、対象者を第2号被保険者にも拡大することを提案します。

また、第2号被保険者の方の場合、がんなどの治療を受けながら、就労などの社会生活を送られていることを想定しますと、活動しやすいタイプの形状のものを

選択肢に入れることは大切です。おむつの種類の拡充も併せて提案します。

**答弁** (区長) 議員よりご提案いただきました対象者の拡大は、私も課題として捉えており、次年度より介護保険第2号被保険者で要介護1以上の方も対象者に加えたいと考えています。

尚、種類の拡充につきましては、利用者の声なども参考にしながら、今後の検討課題とさせていただきます。

## 健康

### 渋谷区自殺対策計画(案)について

**質問** 渋谷区自殺対策計画(案)基本施策2、自殺対策を支える人材の育成では、「自殺の危険を示すサインに気づき、声をかけ、話を聴き、必要な支援につなげ、見守る人」であるゲートキーパーの育成を挙げています。

そこで、ゲートキーパー養成講座を、地域住民の身近な存在である理美容事業者の方々に受講して頂くことを提案します。

理美容店には、定期的にもたれ続けに通う方が多いことから、心身の変化に気づきやすいと考えます。理美容事業者の方々によるゲートキーパー及び「メンタルヘルスサポート協力店」の登録について、区長のご所見を伺います。

が、ゲートキーパーとして継続的に地域に関わることは、自殺予防の大きな力になることから、議員ご提案乗り、理美容事業者の方々によるゲートキーパー及び「メンタルヘルスサポート協力店」登録等、ゲートキーパーの育成や活用の方について検討してまいります。

### 産後うつ対策について

**質問** 妊産婦の死因の第一位は自殺であることから、区は、妊娠期から切れ目のない支援を行う渋谷区子育てネウボラの更なる充実が求められています。

既に子育てネウボラは、多様な事業を持ち、複合的支援があることは承知しております。他方、地域のセーフティネットを強化していくことも重要です。

渋谷区子育てネウボラと地域のネットワークの強化について、どのような体制を検討されているのかお示しく下さい。

**答弁** (区長) 医療機関、助産師会などの関係団体と連携しながら、各部門が一体となって産後うつ対策として地域のネットワーク強化を進めてまいります。



ひとり一人を大切に、皆様の声を区政に活かします。

—— 区政に対するご要望、お困りごと、お気軽にご相談ください ——

渋谷区議会議員 近藤じゅん子

- 福祉保健委員会 委員長
- 自治権確立特別委員会

渋谷区議会公明党控室  
TEL. 03-3463-1036 FAX. 03-5458-4962  
携帯 090-2221-7507  
近藤じゅん子のブログ  
<http://ameblo.jp/kondo-junkon>



ホームページ



アメブロ



Twitter



Facebook